徳島大学就職支援団体「ACTIVE」によるアンケート調査の報告
～徳島大学における就職活動の実態調査～

山口喜堂[1)]　山野明美[2)]　井上琢斗[1)]
1) 徳島大学大学院　先端技術科学教育部　知的力学システム工学
2) 徳島大学 総合教育センター キャリア支援部門

１．はじめに

2008 年秋のリーマン・ショック以降の景気低迷で多くの企業が採用を減らした。就職先が決まらないまま 4 月を迎えた学生もおり，就職氷河期の再来と考えられた。現在は景気が上昇傾向にあり，企業によっては採用人数を増やしているが，いまだに就職先が決まらない学生も多くいる。また，本年は就職活動の後ろ倒しもあり，学生にとって新たな局面を迎えている。このような現代社会の流れの中で，2014 年 6 月 16 日付日本経済新聞で「人事が選ぶ大学ランキング」において，徳島大学は 6 位と地方国立大学では非常に高い評価を得ている。このように，就職先の決定が困難である社会において，就職活動に有利な大学というのは大学受験者の大学決定において望まれる要素の 1 つであるだろう。しかし，現状として企業の人事から徳島大学が高い評価をいただいた理由が明らかとなっていないことが問題となっている。そこで，本論文では，徳島大学就職支援団体「ACTIVE」による昨年度の就職活動生を対象とした就職活動の実態調査アンケートの結果報告とともに，今後も徳島大学が就職活動に強い大学であるために本学学生に有益である情報をまとめる。

２．アンケート調査の概要

2-1　対象および実施方法

(1) 対象学生

2013 年 12 月から 2014 年 10 月までに就職活動を終えた徳島大学工学部・総合科学部の 4 回生および修士課程 2 年生である。

（2）実施方法

徳島大学工学部・総合科学部各研究室に訪問して紙面にて実施した。

2-2　アンケート内容

アンケートの質問内容は就職活動に関する活動時期，内定企業について，就職活動の準備について，所属する研究室と就職活動に関しての 4 つで形成した。アンケートの質問数は 16 であり，選択式の質問数が 11，記入式の質問数が 5 である。今回，取得したアンケート数は合計で 81 であり，すべて無記名方式で行った。本論文では枚数制限の都合上，3 つの質問結果を記載した。

３．結果および考察

3-1　就職活動時期やその適正について

就職活動を有利に進める中でもっとも重要な要素の一つに就職活動時期がある。そこで，本学の学生の就職活動開始時期を把握するための質問を設けた。結果を図-1 に示す。図-1 より本学の学生が就職活動を始める時期は 12 月以降が 67%を占めることが分かる。加えて，アンケート記入者の就職活動時期は適正な時期であったか調査を実施した。結果を図-2 に示す。図-2 より就職活動の時期は適正であったと考える学生が 83%と大部分を占めている。そこで，就職活動時期が適正でなかったと答えた学生 17%（12 人）に対してのみ，適正と思う時期を質問したところ，10 月以降と答えた人が 9 人であった。すなわち，個人差はあるが就職活動解禁前に 2 ヶ月間準備期間を設けておくことが，本学における有利な就職活動であることが分かる。

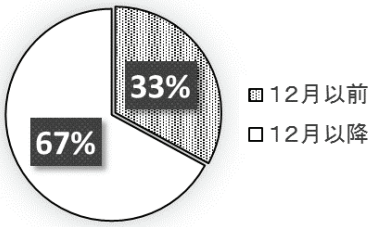

図-1　就職活動開始時期

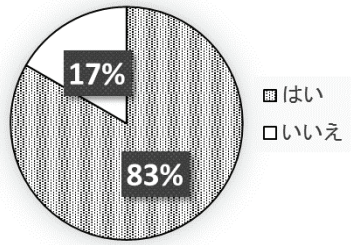

図-2　就職活動開始時期は適正だったか

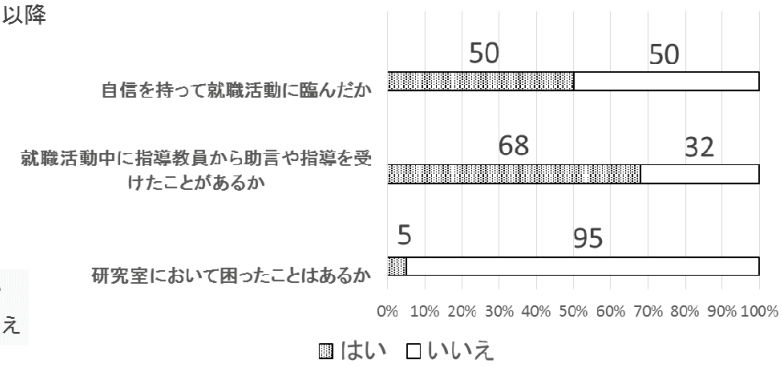

図-3　アンケート結果の一部

3-2　就職活動に対する自信について

就職活動が本格化すると企業の人事や役員と面接をする機会が多く存在する。筆者は面接を有利に進める上で自身の PR が非常に重要であり，自身の PR に大きく影響する要素が「自信」だと考えている。なぜなら，「自信」は，就職活動生が大学時代に行ってきた経験や企業に対する知識等，多くの要因から形成されるからである。そこで，「自信」に関する質問を用意した。結果を図-3 に示す。図-3 より，自信を持って就職活動をした学生が 50%，自信がなかった学生が 50%であった。参考文献[1]によると就職活動生の中で自信を持って就職活動に臨めた割合は 5 割程度であり，徳島大学のアンケート調査結果と同等であった。すなわち，「自信」に関して，本学特有の傾向は認められなかったと考えられる。

3-3　就職活動と研究について

図-3 に就職活動と研究室に関しての質問結果を示す。「就職活動中に指導教員から助言や指導を受けたことはありますか」という質問に対し，32%の学生が担当教員から助言や指導が無いことが分かった。しかし，「研究室において困ったことあるか」という質問に対し，就職活動中に困ったことが無い学生が 95%も占めることから，担当教員から助言や指導があることと研究の影響で就職活動がしづらくなることとは関係性が薄いことも明らかとなった。

４．まとめ

本調査で得た結果を以下に示す

- 徳島大学学生の 7 割近くは就職活動解禁後に活動を開始する。
- 徳島大学学生の内，半数が自信を持って就職活動に臨んでいる。
- 徳島大学の研究室において，学生が求めることは担当教員に温かく見守ってもらうこと。

本調査によって，本学の就職活動は就職活動解禁日より前に 2 ヶ月間の準備期間があると有利であることが明らかとなった一方で，日本経済新聞の「人事が選ぶ大学ランキング」での本学の評価を裏付ける証拠の確認には至らなかった。

５．謝辞

本論文の作成にあたり，アンケート調査に快く協力していただきました各研究室の教員ならびに学生の皆様に心から感謝します。また，アンケート調査の実施の手伝いをしてくれた「ACTIVE」の新田信也さんに感謝の意を表します。

参考文献

1)　2015 年卒マイナビ学生就職モニター調査 12 月の活動状況